

英語活用 実態調査

企業・団体
ビジネスパーソン

2019



英語活用 実態調査

【企業・団体】
【ビジネスパーソン】
2019

Contents

回答者属性	P.3
I. 企業・団体における英語の位置づけ	
企業・団体が考える重要なスキルと不足しているスキル	P.4
企業・団体内での英語の使用状況と目標とする英語力	P.5
企業・団体における英語教育施策とその効果	P.6
英語教育にまつわる課題と年間予算	P.7
II. ビジネスパーソンの英語に対する意識	
職場での英語の使用状況と現在の英語スキル	P.8
英語学習のモチベーションと英語力向上への課題	P.9
ビジネスパーソンの英語学習スタイル	P.10
III. 企業・団体における TOEIC® Program の活用	
TOEIC® Listening & Reading Test	P.12
TOEIC® Speaking & Writing Tests	P.13
TOEIC Bridge® Test	P.13
企業・団体が求める TOEIC® Program スコア	P.14

調査概要

企業・団体調査

調査名	TOEIC® Programを活用している企業・団体における英語教育、英語活用の実態調査
調査対象	2017年1月～2018年8月に、TOEIC® Programの公開テスト団体一括受験申込あるいは団体特別受験制度(IP: Institutional Program、以下IPテスト)を利用した2,442の企業・団体
調査方法	WEB調査、質問紙郵送調査を併用
調査期間	2018年11月～2019年2月
有効回答数	528

ビジネスパーソン調査

調査名	ビジネスパーソンの職場での英語活用や、英語に対する意識についての調査
調査対象	日経BPが運営する「日経ビジネス オンライン」の登録者(20～50歳代の有職者)
調査方法	WEB調査
調査期間	2018年12月
有効回答数	466

※割合に関する数値はすべて少数点第2位を四捨五入した。

※複数回答のアンケートについて、「無回答」は回答に影響しないという判断からグラフ内には記載していない。

※各テストのスコアについて、TOEIC® Listening & Reading Test (以下、TOEIC L&R)は5点刻み、TOEIC® Speaking & Writing Tests (以下、TOEIC S&W)は10点刻みで算出するため、平均スコアや期待するスコアはこの単位に合わせて四捨五入している。

回答者属性

企業・団体調査

1.業種

n=528 [%]

農林・水産・鉱業	0.6
建設・土木	4.2
化学・薬品	7.6
食品	2.8
石油・石炭・ゴム	1.9
繊維・紙・木材	2.3
鉄・非金属・窯業	4.5
輸送機器・関連機器	8.3
一般機械製造	6.3
電機・精密機械	13.1
その他製造業	8.5
電気・ガス・熱供給・水道	0.4
情報通信・通信サービス	7.8
運輸・倉庫	3.8
不動産	1.3
商社	5.7
卸売・小売	4.0
飲食・宿泊	1.3
銀行・保険・証券・信販	2.8
放送・新聞・出版・印刷	0.2
その他サービス業	6.6
中央官庁	0.2
都道府県	0.2
市町村	0.2
公共団体	0.4
独立行政法人	0.4
民間団体	0.4
その他	4.0
無回答	0.4

2.従業員規模 (連結ベース)

n=528 [%]

299人以下	19.1
300~499人	11.0
500~999人	17.2
1,000~1,999人	14.0
2,000~4,999人	12.7
5,000~9,999人	9.3
10,000~49,999人	11.6
50,000~99,999人	2.8
100,000人以上	1.5
わからない	0.4
無回答	0.4

3.所属部門

n=528 [%]

経営・社業全般・CSR	1.7
人事・人材開発	73.5
総務・経理・財務	14.4
企画・調査・広報・マーケティング	2.5
資材・購買	0.0
営業・販売	1.9
研究・開発	0.8
設計	0.9
製造・生産管理	0.6
情報システム	0.6
その他	2.3
無回答	0.9

4.上場の有無*

n=496 [%]

上場している	40.9
上場していない	57.9
無回答	1.2

5.売上高 (2017年度)*

n=496 [%]

10億円未満	3.6
10~100億円未満	15.5
100~1,000億円未満	34.9
1,000億~1兆円未満	23.0
1兆円以上	6.9
無回答	16.1

6.海外拠点の有無*

n=496 [%]

ある	71.8
ない	26.2
無回答	2.0

7.対海外の売上高比率 (2017年度)*

n=496 [%]

0% (国内売上のみ)	21.8
1~9%	7.1
10~19%	7.5
20~29%	4.6
30~39%	3.8
40~49%	6.0
50~59%	4.6
60%以上	13.5
無回答	31.0

※官庁系を除く

ビジネスパーソン調査

● 回答者の勤務先

1.業種

n=466 [%]

農林・水産・鉱業	0.9
建設・土木	3.6
化学・薬品	3.6
食品	2.1
石油・石炭・ゴム	0.4
繊維・紙・木材	0.4
鉄・非金属・窯業	1.5
輸送機器・関連機器	5.2
一般機械製造	1.7
電機・精密機械	13.1
その他製造業	5.8
電気・ガス・熱供給・水道	1.5
情報通信・通信サービス	15.2
運輸・倉庫	1.9
不動産	1.7
商社	4.9
卸売・小売	4.1
飲食・宿泊	0.2
銀行・保険・証券・信販	6.0
放送・新聞・出版・印刷	3.6
その他サービス業	13.5
中央官庁	0.4
都道府県	1.1
市町村	1.3
公共団体	1.7
独立行政法人	0.0
民間団体	1.3
その他	3.0
学生・主婦・無職	0.0

2.従業員規模 (連結ベース)

n=466 [%]

299人以下	27.3
300~499人	7.3
500~999人	7.3
1,000~1,999人	9.2
2,000~4,999人	8.8
5,000~9,999人	6.7
10,000~49,999人	11.8
50,000~99,999人	7.5
100,000人以上	12.0
わからない	2.1

3.所属部門

n=466 [%]

経営・社業全般・CSR	8.2
人事・人材開発	3.4
総務・経理・財務	10.7
企画・調査・広報・マーケティング	14.4
資材・購買	1.9
営業・販売	20.4
研究・開発	11.8
設計	6.0
製造・生産管理	3.9
情報システム	9.9
その他	9.4

4.売上高 (2017年度)*

n=425 [%]

10億円未満	8.2
10~100億円未満	16.7
100~1,000億円未満	19.8
1,000億~1兆円未満	19.1
1兆円以上	20.7
無回答	15.5

5.海外拠点の有無*

n=425 [%]

ある	64.5
ない	33.2
無回答	2.4

6.対海外の売上高比率 (2017年度)*

n=425 [%]

0% (国内売上のみ)	32.9
1~9%	11.1
10~19%	8.2
20~29%	5.6
30~39%	5.4
40~49%	3.1
50~59%	7.3
60%以上	15.3
無回答	11.1

※官庁系を除く

● 回答者自身

1.年齢

n=466 [%]

24歳以下	2.8
25~29歳	26.6
30~39歳	22.9
40~49歳	24.5
50~59歳	23.2
60歳以上	0.0
平均年齢	39.9歳

2.役職

n=466 [%]

一般社員・職員	44.6
係長・主任クラス	20.8
課長クラス	22.1
部長クラス	6.4
工場長・事業部長・本部長クラス	1.5
経営者・役員	3.4
その他	1.1

3.TOEIC L&Rスコア取得者

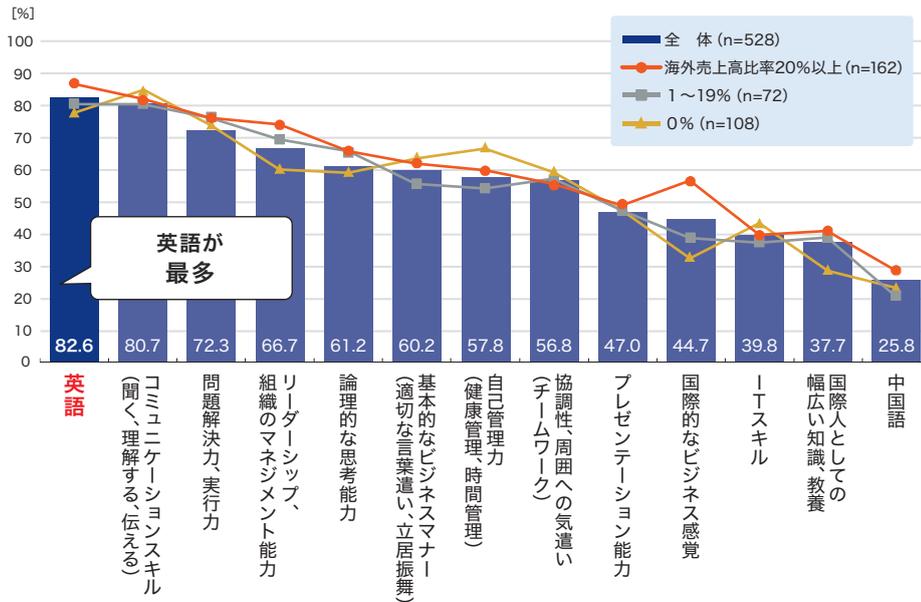
n=292 [%]

600点未満	28.1
600~700点未満	17.8
700~800点未満	18.8
800~900点未満	20.5
900点以上	14.7

▶ TOEIC Programを活用している企業・団体を対象に、英語教育の実態について調査を行った。

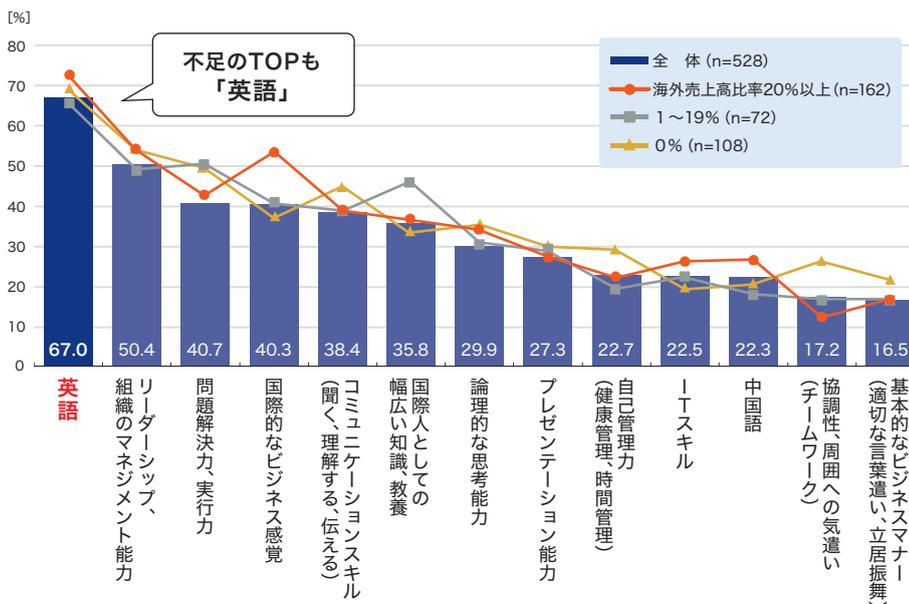
企業・団体が考える重要なスキルと不足しているスキル

今後のビジネスパーソンにとって重要な知識やスキル（複数回答）



今後のビジネスパーソンにとって重要な知識やスキルについて、回答企業の82.6%が「英語」を選択。続く、「コミュニケーションスキル（聞く、理解する、伝える）」と並び、多くの企業で重要視されていることが分かった。

社員や職員に不足している・今後強化する必要がある知識やスキル（複数回答）

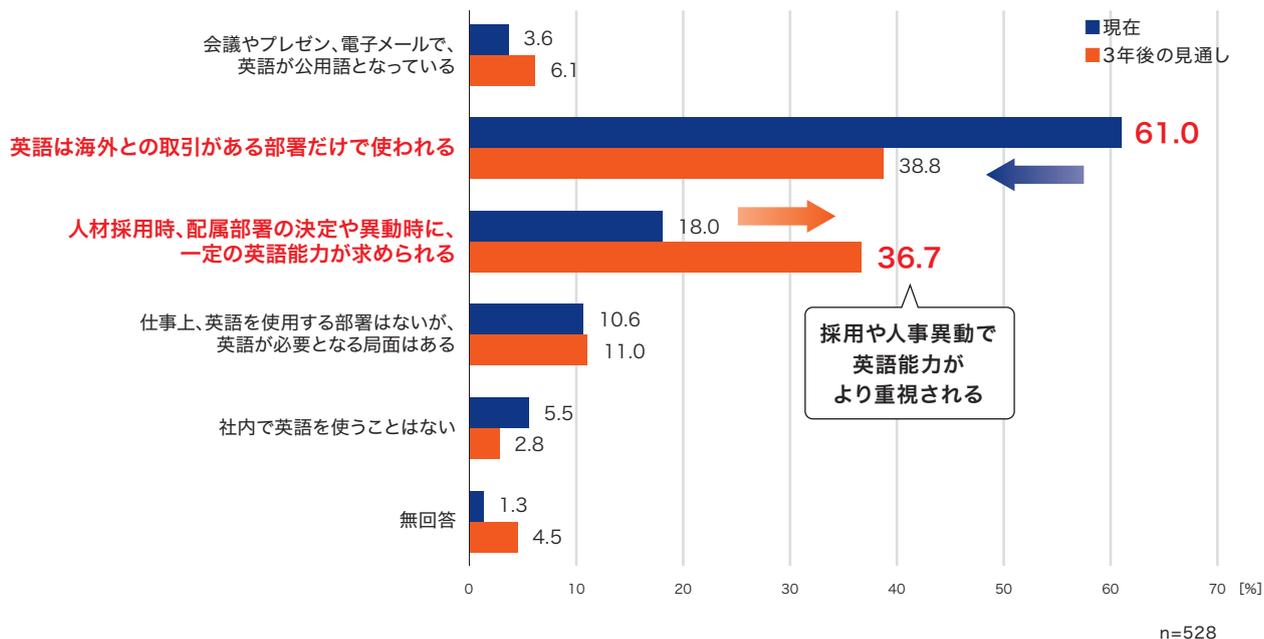


社員や職員に不足していたり、今後強化する必要がある知識やスキルについても、67.0%で「英語」が最多に。「リーダーシップ、組織のマネジメント能力」「問題解決力、実行力」「国際的なビジネス感覚」などと比べて、より不足していると認識していることが分かった。

上記2つのアンケート結果から、「英語」は、今後のビジネスパーソンにとって重要なスキルであり、現状では「不足しており、強化したい」スキルでもあるといえる。

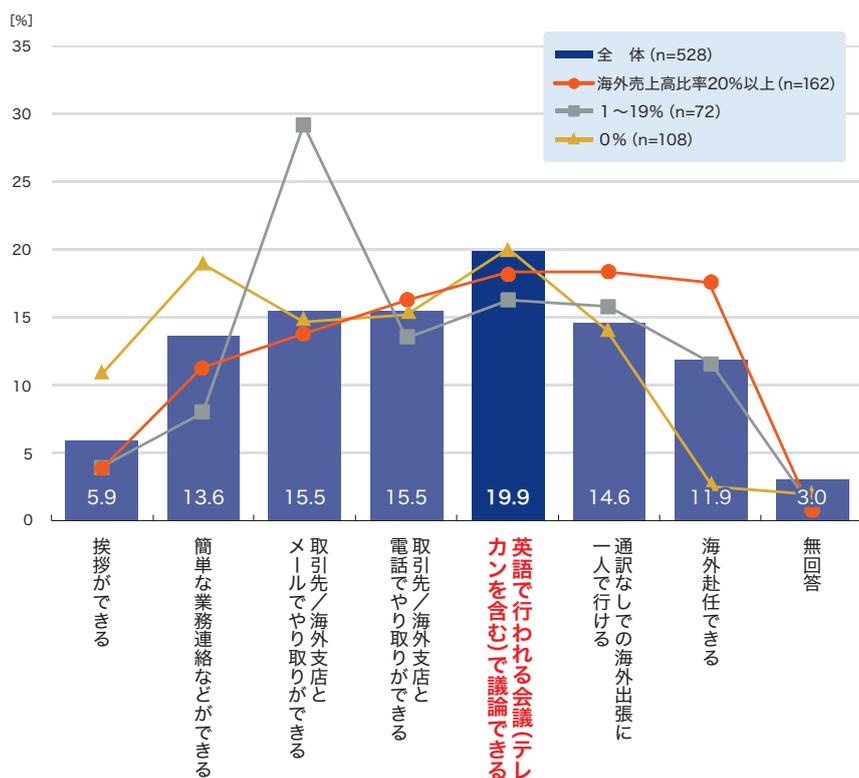
企業・団体内での英語の使用状況と目標とする英語力

英語の使用状況と3年後の見通し（最も近いものを1つ）



企業に英語の使用状況を尋ねたところ、現在は「英語は海外との取引がある部署だけで使われる」が61.0%と最も多いが、3年後の見通しでは38.8%と大幅に減少する。一方、「人材採用時、配属部署の決定や異動時に、一定の英語能力が求められる」は現状では18.0%に留まるが、3年後の見通しでは約2倍に伸長(18.0%→36.7%)。このことから、現在は海外取引がある部署を中心に使われている英語が、今後は他の部署でも必要になると考えられる。

企業・団体が目標とする英語スキルの水準（最も近いものを1つ）

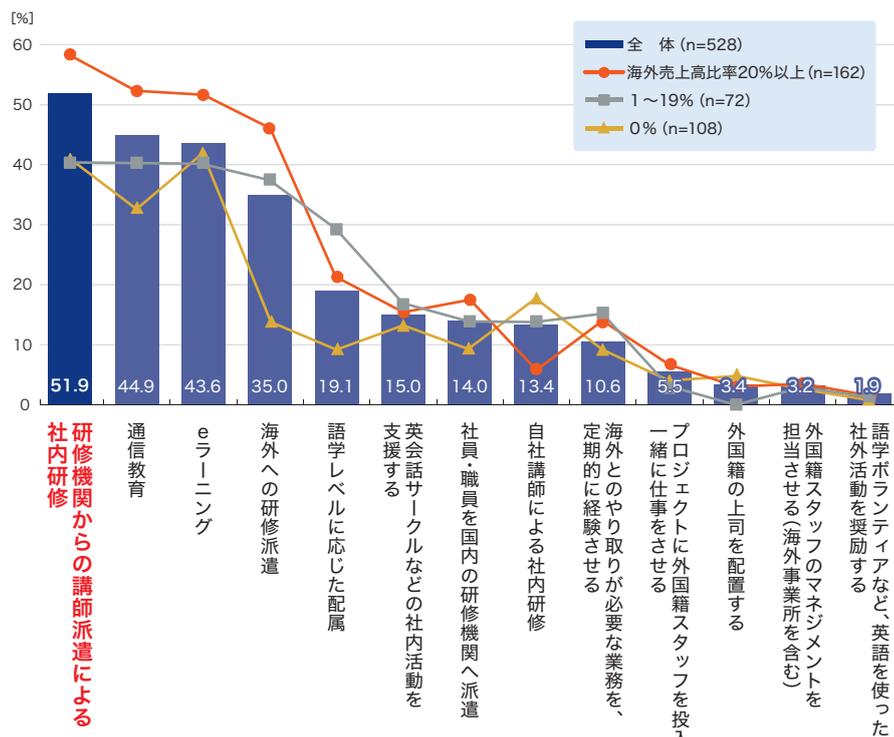


企業における英語スキルの目標水準は、回答企業全体では「英語で行われる会議(テレカンを含む)で議論できる」(19.9%)が最も多い結果となった。海外売上高比率別で見ると、「海外売上1~19%」の企業で「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」が突出(29.2%)。また、「海外売上20%以上」の企業では、「英語で行われる会議(テレカンを含む)で議論できる」に加え、「通訳なしでの海外出張に一人で行ける」「海外赴任できる」といった、より高度なスキルも目標となっていることが分かった。

※テレカン…電話会議のこと

企業・団体における英語教育施策とその効果

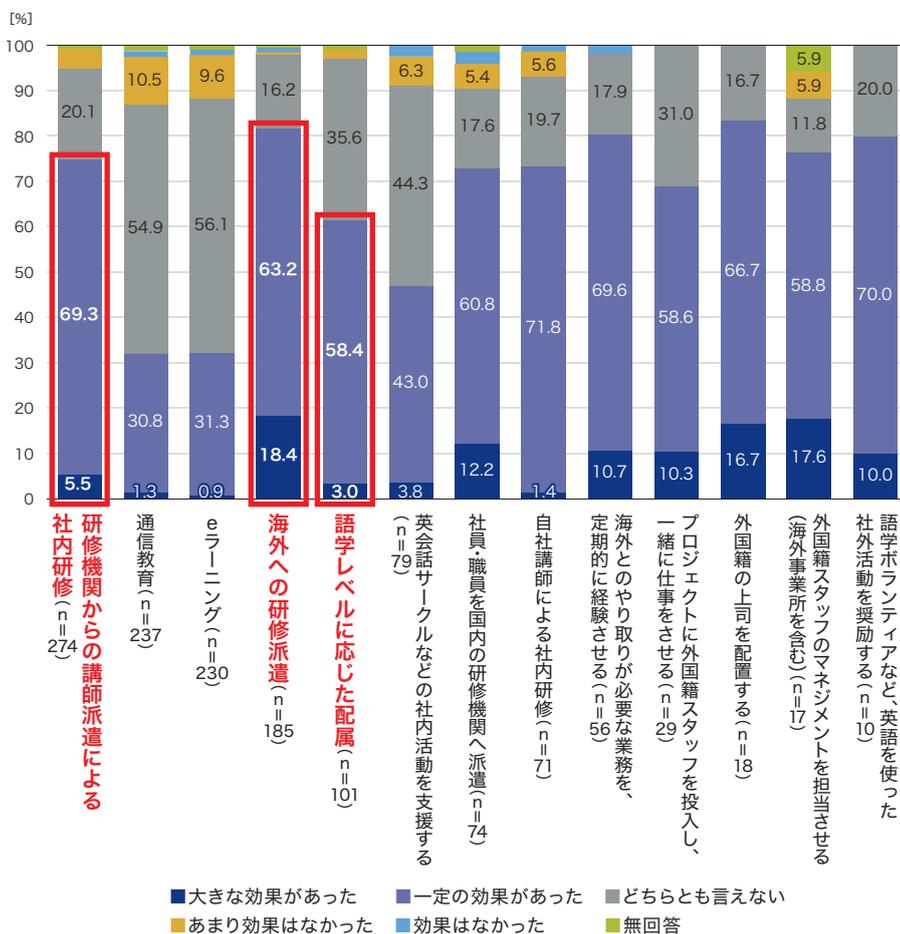
実施している英語教育施策（複数回答）



英語教育施策について、回答企業の4~5割が「研修機関からの講師派遣による社内研修」「通信教育」「eラーニング」を実施。「海外への研修派遣」も3割を超えた。

ただし、海外売上高比率別で見ると、「海外への研修派遣」が「海外売上20%以上」では46.3%に対して、「0% (国内売上のみ)」では13.9%と、実施率に大きな差が出た。

実施した英語施策の効果（該当項目につき1つ）



※5%未満の数値は、一部を除いて非表示
※一部、n数の少ないものが含まれる

企業が実施した英語施策で回答数(n)が100以上ある項目のうち、「大きな効果があった」と「一定の効果があった」の合計が最も多かったのは「海外への研修派遣」で、81.6%だった。

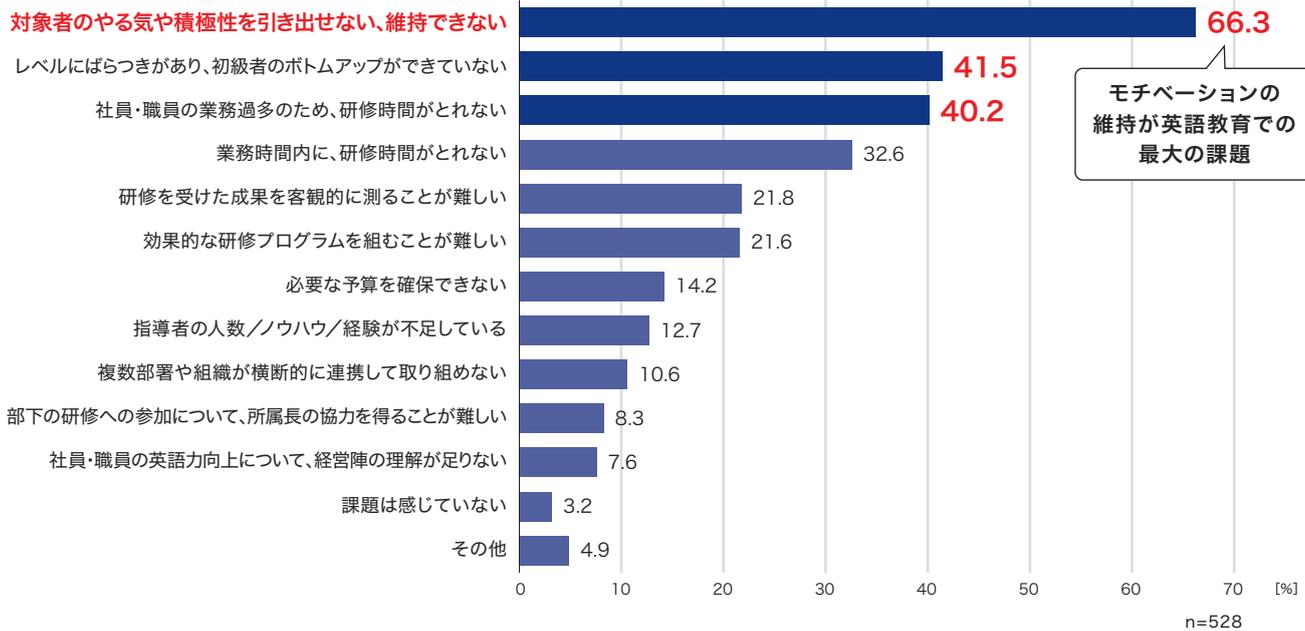
次いで、「研修機関からの講師派遣による社内研修」(74.8%)、「語学レベルに応じた配属」(61.4%)も多く企業が効果があったと回答した。

一方、実施している企業が多かった(P.6上図)「通信教育」と「eラーニング」の効果は、それぞれ32.1%と32.2%に留まった。

このことから、自主学習が中心の「通信教育」や「eラーニング」より、実際に英語を使う施策の方が大きな効果を得られると推察される。

英語教育にまつわる課題と年間予算

英語教育にまつわる課題（複数回答）



英語教育にまつわる課題では、「対象者のやる気や積極性を引き出せない、維持できない」が66.3%と最も多く、社員や職員のモチベーションの維持に苦心している企業が多いことが分かった。次いで、「レベルにばらつきがあり、初級者のボトムアップができていない」(41.5%)や「社員・職員の業務過多のため、研修時間がとれない」(40.2%)も、多くの企業が課題として挙げた。

企業・団体における教育費と英語教育費の年間予算

年間予算総額の今後の見通し

	増やす	やや増やす	変わらない	やや減らす	減らす	無回答
教育費の年間予算総額 (n=528)	5.1	22.0	53.2	4.4	1.3	14.0
英語力向上に費やす年間予算総額 (n=528)	4.4	19.1	56.6	4.2	1.3	14.4

「教育費の年間予算総額」と、その内の「英語力向上に費やす年間予算総額」について、「増やす」「やや増やす」と答えた企業は3割弱を占めた。

英語に関する教育費（受講者一人当たりの年間経費）

	10万円未満	10～100万円未満	100万円以上	平均金額
一般社員・職員 (n=237)	47.3	33.3	19.4	77万円
課長クラス (n=162)	48.1	37.7	14.2	44万円
部長・局長クラス (n=103)	57.3	29.1	13.6	41万円
経営層 (n=62)	56.5	30.6	12.9	37万円

役職別の平均金額は「一般社員・職員」が77万円と最も高く、「課長」「部長・局長」「経営層」の平均は40万円前後だった。金額帯は役職を問わず「10万円未満」が約半数を占めた。「一般社員・職員」向けは「100万円以上」がやや多く、平均金額を底上げした。

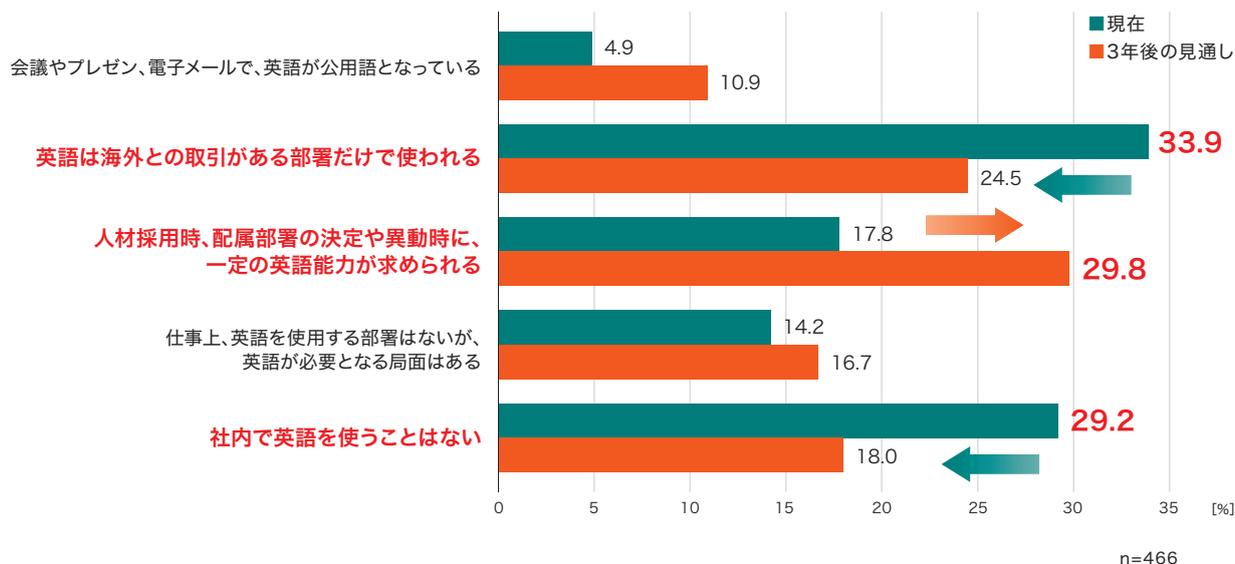
II

ビジネスパーソンの英語に対する意識

▶ 20～50歳代のビジネスパーソン(466人)を対象に、英語の使用状況や課題、英語力向上のための学習法などを調査した。

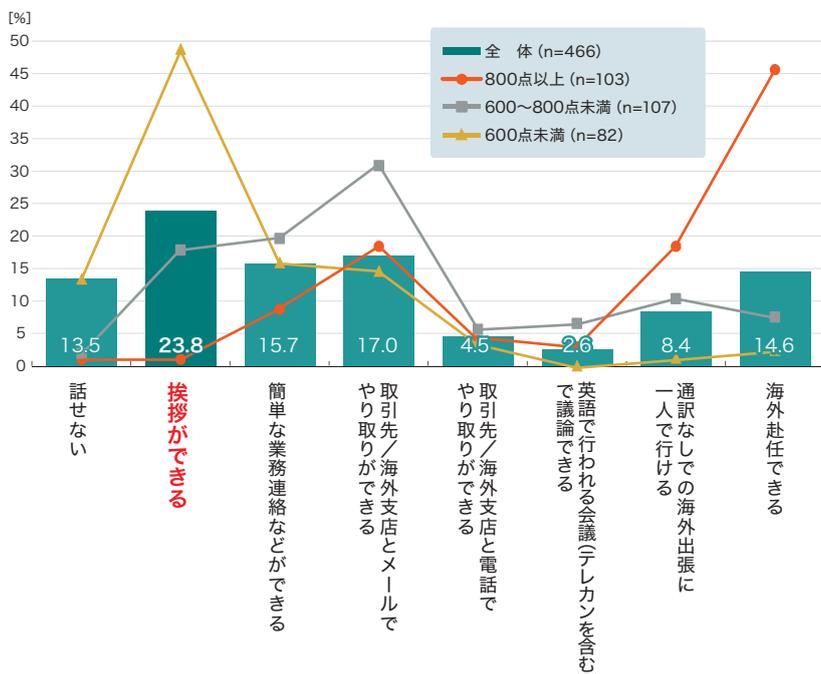
職場での英語の使用状況と現在の英語スキル

英語の使用状況と3年後の見通し (最も近いものを1つ)



ビジネスパーソンに自身の職場での英語の使用状況を尋ねたところ、現在は「英語は海外との取引がある部署だけで使われる」(33.9%)が最も多く、「社内で英語を使うことはない」(29.2%)が次点だった。しかし、3年後の見通しでは両項目ともに割合が減少。「人材採用時、配属部署の決定や異動時に、一定の英語能力が求められる」が29.8%で最多となった。これは企業への調査と同様の結果(P.5上図)であり、ビジネスパーソンも今後ますます英語が使われるようになっていくと認識していることがうかがえる。

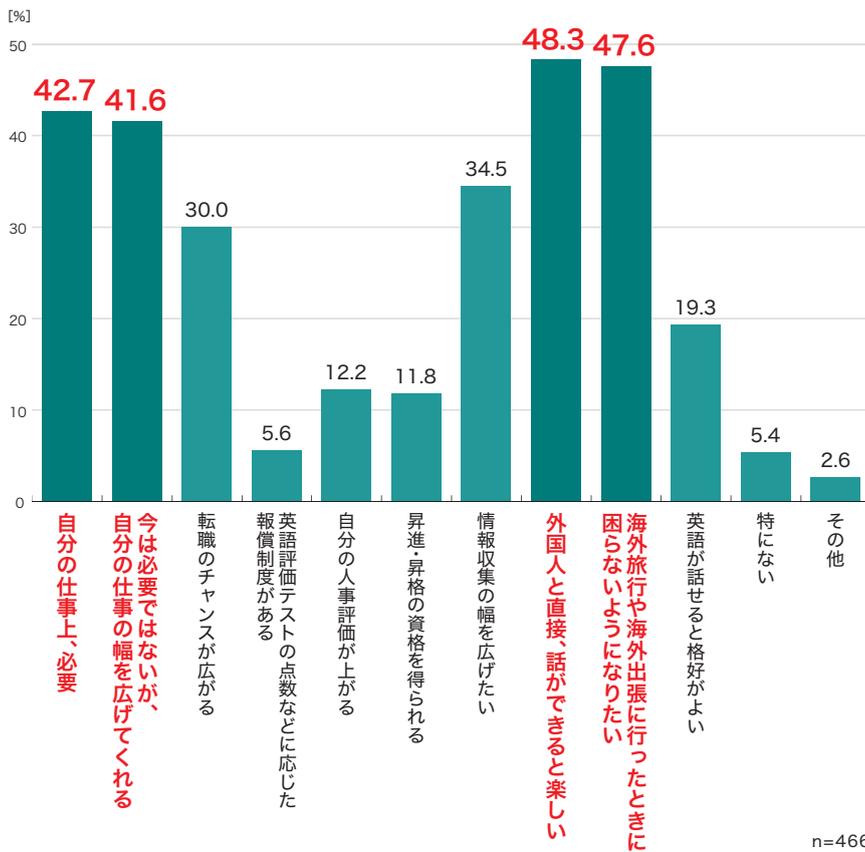
現在の英語スキル (最も近いものを1つ)



ビジネスパーソンに、現在、仕事で使用しているレベルに最も近い英語スキルを尋ねたところ、「挨拶ができる」(23.8%)、「簡単な業務連絡などができる」(15.7%)、「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」(17.0%)など、初中級者レベルの英語スキルが半数以上(合計56.5%)を占めた。TOEIC L&Rスコア帯別にみると、「800点以上」は「海外赴任できる」を、「600～800点未満」は「取引先/海外支店とメールでやり取りができる」を、「600点未満」は「挨拶ができる」を、現在の英語力に最も近いスキルだと回答した。

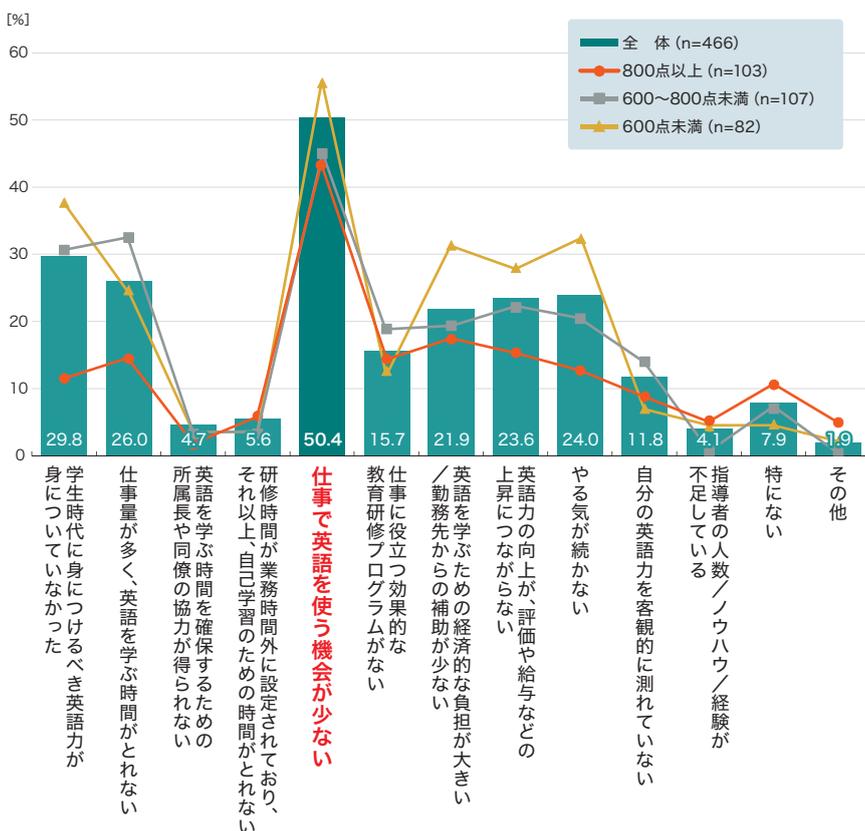
英語学習のモチベーションと英語力向上への課題

英語を学ぶ際のモチベーション (複数回答)



英語を学ぶ際のモチベーションとして、回答者の4割以上が「外国人と直接、話ができると楽しい」「海外旅行や海外出張に行ったときに困らないようになりたい」「自分の仕事上、必要」「今は必要ではないが、自分の仕事の幅を広げてくれる」を挙げた。この傾向はTOEIC L&Rスコア帯別にみても大きな差はなく、ビジネスパーソンの多くが仕事とプライベートの両方で、英語学習に前向きに取り組んでいることがうかがえる。

英語力向上において抱えている課題 (複数回答)

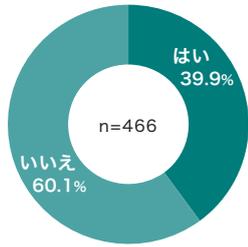


ビジネスパーソンが英語力向上において抱えている課題では、「仕事で英語を使う機会が少ない」(50.4%)が最多に。どのTOEIC L&Rスコア帯においても、最大の課題となった。企業側は英語教育の最大の課題(P.7上図)を「対象者のやる気や積極性を引き出せない、維持できない」と回答したが、ビジネスパーソンにとって「やる気が続かない」(24.0%)ことは課題ではあるものの、英語を使う機会の少なさほどではないようだ。これらのことから、学んだ英語を実際に活かせる機会の提供は、さらなる英語力の向上や学習意欲の喚起の一助となると推察できる。

ビジネスパーソンの英語学習スタイル

普段の英語の学習状況

Q. 普段、英語を学習していますか？



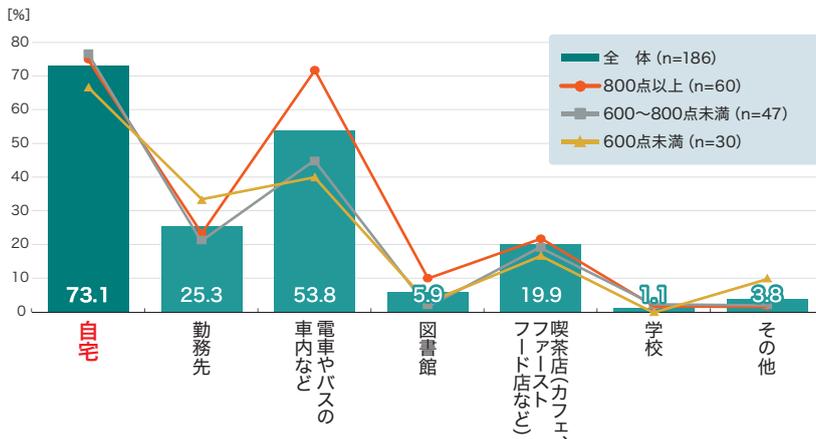
■ 1週間のうち英語の学習にあてる時間

[%]

	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上 4時間未満	4時間以上 5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上	平均時間
全体 (n=186)	26.3	19.4	16.1	12.4	3.2	15.1	7.5	3時間42分
800点以上 (n=60)	23.3	15.0	8.3	11.7	3.3	18.3	20.0	6時間4分
600~800点未満 (n=47)	29.8	25.5	12.8	12.8	0.0	14.9	4.3	2時間42分
600点未満 (n=30)	20.0	16.7	33.3	13.3	0.0	16.7	0.0	2時間40分

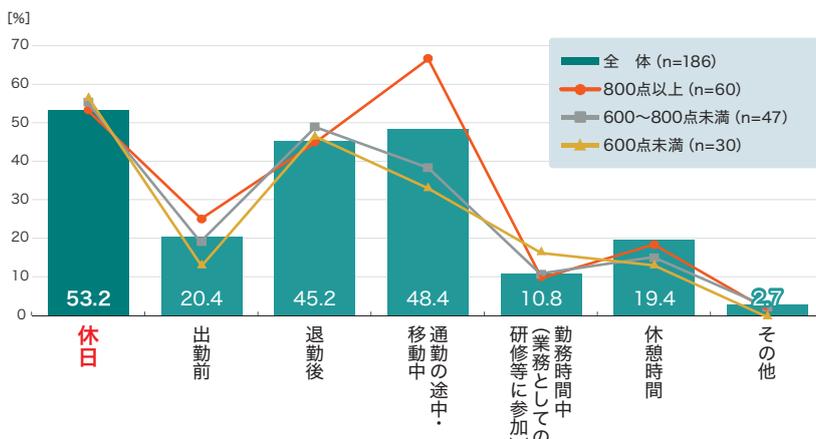
英語の学習状況については全体の39.9%が普段から英語を学習していると回答。TOEIC L&Rスコア帯別にみると、「800点以上」の58.3%、「600~800点未満」の43.9%、「600点未満」の36.6%が普段から英語を学習しているという結果となった。また、1週間のうち英語の学習にあてる時間は、全体では平均3時間42分だったが、TOEIC L&Rスコア帯別にみると「800点以上」が6時間4分と特に長いことが分かった。

英語を学習する場所（複数回答）



英語を学習する場所について、回答者全体では「自宅」(73.1%)、「電車やバスの車内など」(53.8%)、「勤務先」(25.3%)の順で多いことが分かった。TOEIC L&Rスコア帯別にみると、「800点以上」は「電車やバスの車内など」が71.7%と高く、「自宅」(75.0%)とほぼ同等の結果となった。

英語を学習する時間帯（複数回答）



スコア帯別の学習時間帯

800点以上

1. 通勤の途中・移動中
2. 休日
3. 退勤後

600~800点未満

1. 休日
2. 退勤後
3. 通勤の途中・移動中

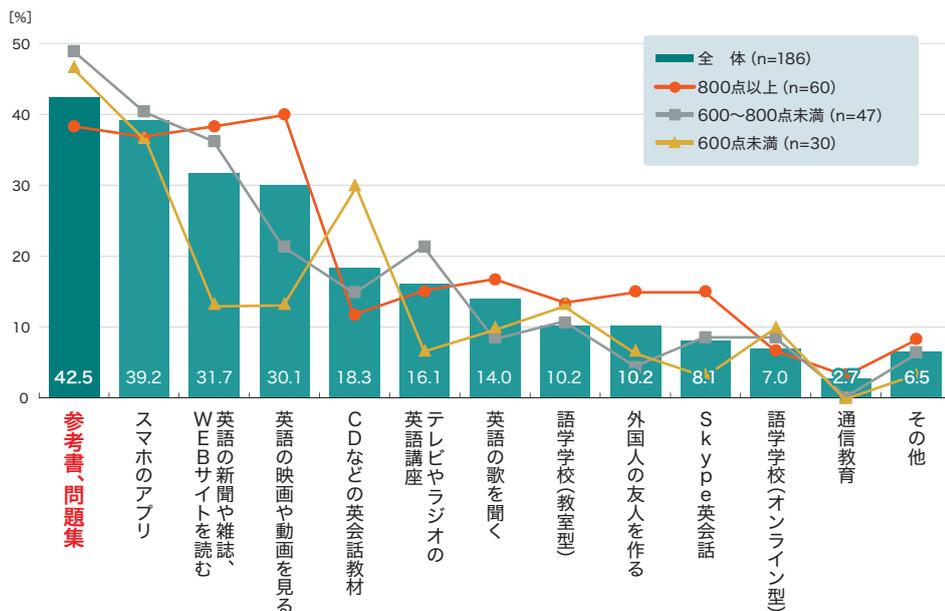
600点未満

1. 休日
2. 退勤後
3. 通勤の途中・移動中

英語を学習する時間帯について、回答者全体では「休日」(53.2%)が最も高く、「通勤の途中・移動中」(48.4%)、「退勤後」(45.2%)が続いた。

TOEIC L&Rスコア帯別にみると、「800点以上」の「通勤の途中・移動中」が66.7%と、その他のスコア帯より約2倍も高い結果に。1週間のうち英語の学習にあてる時間が最長である(P.10上段)ことや、「電車やバスの車内など」が「自宅」と並ぶ学習場所として挙げた(P.10中段)ことを踏まえると、「800点以上」は「スキマ時間」を上手く活用していると考えられる。

英語の学習方法（複数回答）



スコア帯別の主な学習方法

全スコア帯で利用

参考書、問題集/スマホのアプリ/語学学校(教室・オンライン型)/通信教育

800点以上

英語の映画・動画
英語の新聞・雑誌、WEBサイト
Skype英会話/英語の歌
外国人の友人

▶「生」の英語を活用する傾向

600~800点未満

テレビ・ラジオの英語講座

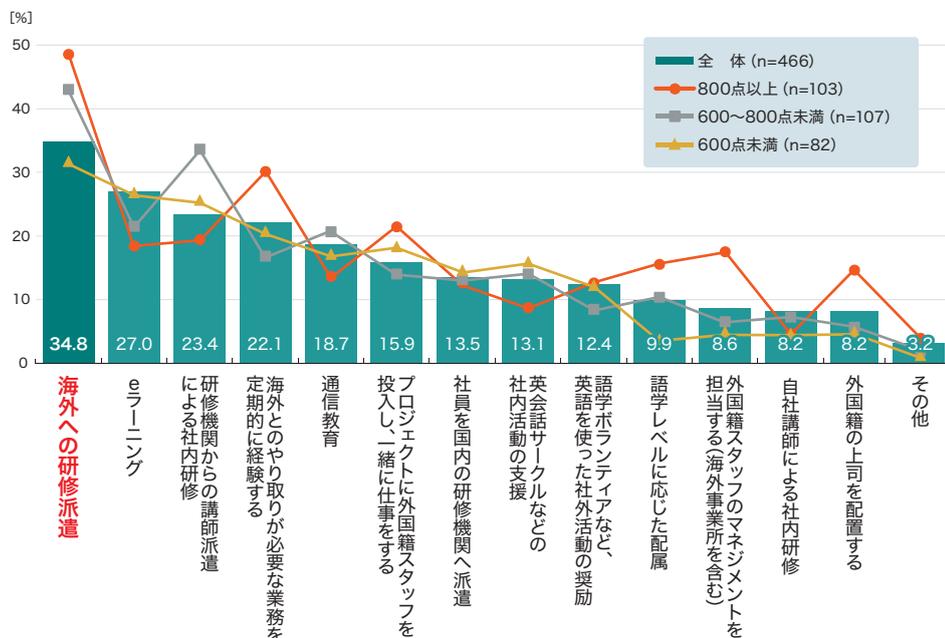
600点未満

CDなどの英会話教材

▶講座や教材などを活用する傾向

英語の学習方法について、回答者全体では「参考書、問題集」(42.5%)と「スマホのアプリ」(39.2%)が2強となった。一方、TOEIC L&Rスコア帯別にみると、「800点以上」では「英語の映画や動画を見る」が他のスコア帯と比べて突出(40.0%)。また、「600~800点未満」は「テレビやラジオの英語講座」(21.3%)が、「600点未満」は「CDなどの英会話教材」(30.0%)が他のスコア帯より多い結果となった。

今後利用したい英語教育施策（複数回答）



スコア帯別の教育施策

800点以上

1. 海外への研修派遣
2. 海外とのやり取りが必要な業務を、定期的に経験する
3. プロジェクトに外国籍スタッフを投入し、一緒に仕事をする

600~800点未満

1. 海外への研修派遣
2. 研修機関からの講師派遣による社内研修
3. eラーニング

600点未満

1. 海外への研修派遣
2. eラーニング
3. 研修機関からの講師派遣による社内研修

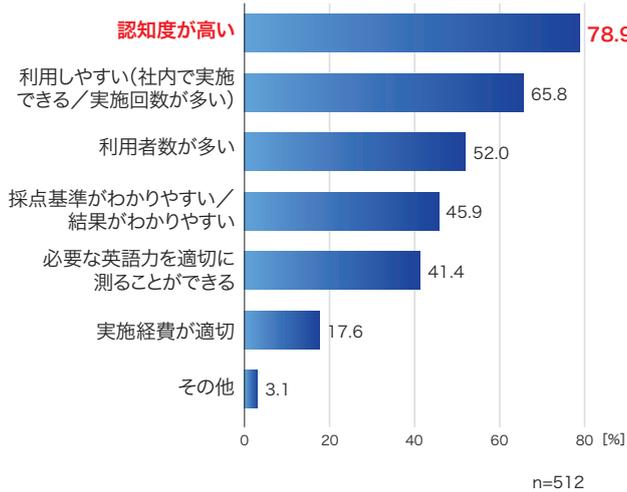
今後利用したい英語教育施策について、回答者全体では「海外への研修派遣」(34.8%)、「eラーニング」(27.0%)、「研修機関からの講師派遣による社内研修」(23.4%)、「海外とのやり取りが必要な業務を、定期的に経験する」(22.1%)、「通信教育」(18.7%)の順に多くなった。

この内、「海外とのやり取りが必要な業務を、定期的に経験する」以外の4項目は、企業の多くが実施している施策と一致している(P.6上図)。施策を「行う側」と「受ける側」のギャップは「海外とのやり取りが必要な業務を、定期的に経験」できるかどうかにあるようだ。

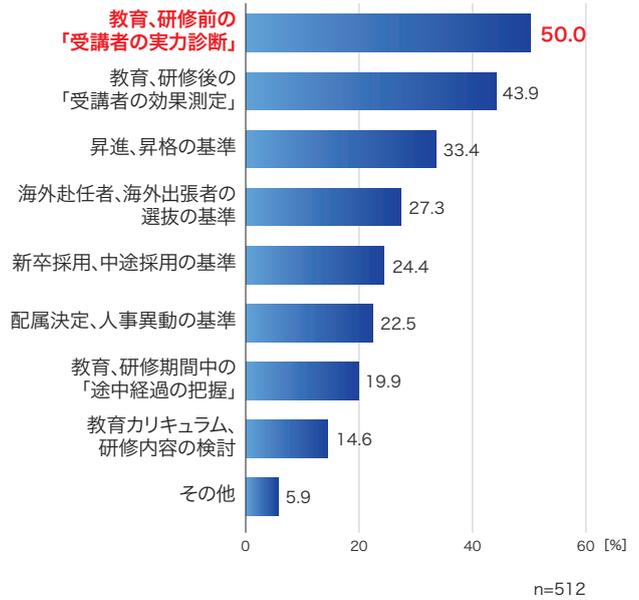
▶ ここからは、企業・団体における TOEIC Program の活用方法について、テスト別に詳しく紹介する。

TOEIC® Listening & Reading Test

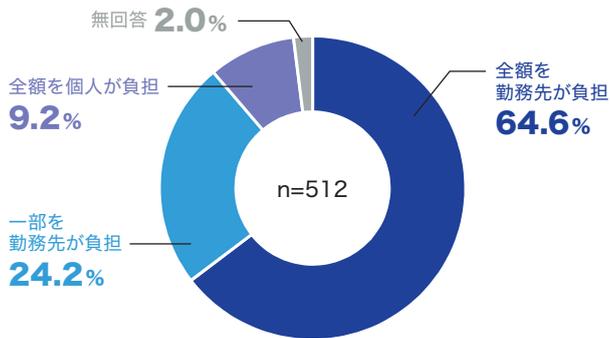
採用理由 (複数回答)



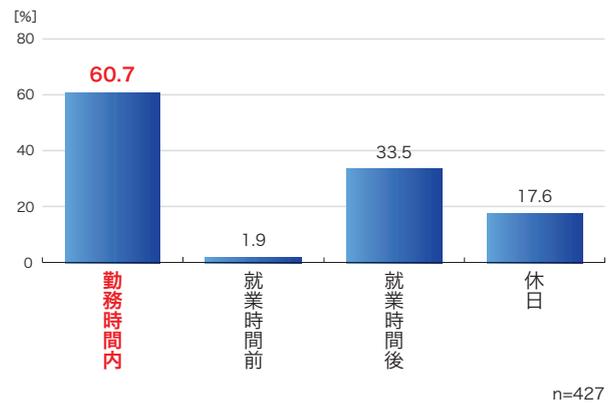
結果の利用用途 (複数回答)



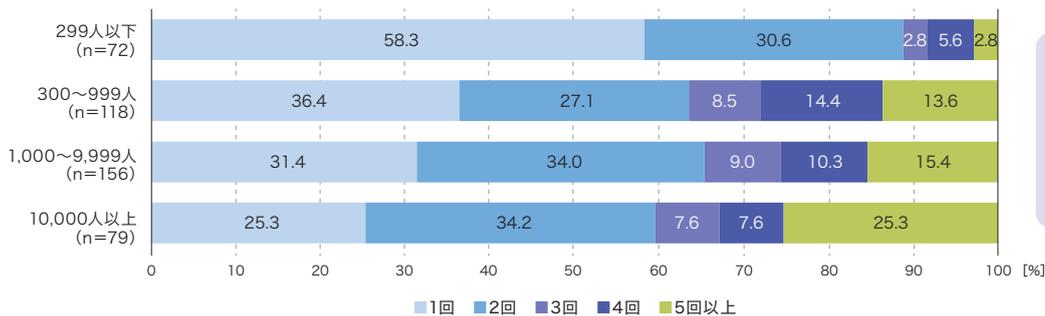
受験費用の負担者



IPテストの実施時間帯 (複数回答)



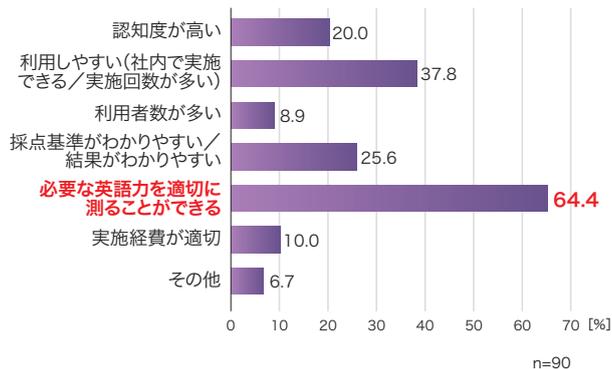
IPテスト年間実施回数



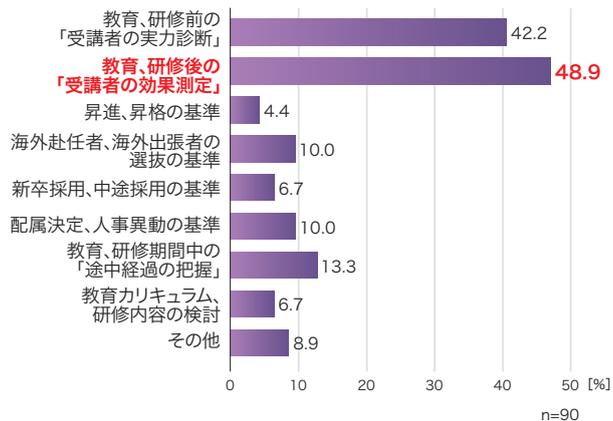
企業規模が大きくなるに従い、年間の実施回数も増える傾向がある。

TOEIC® Speaking & Writing Tests

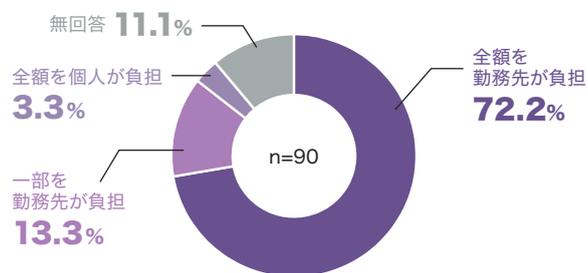
採用理由 (複数回答)



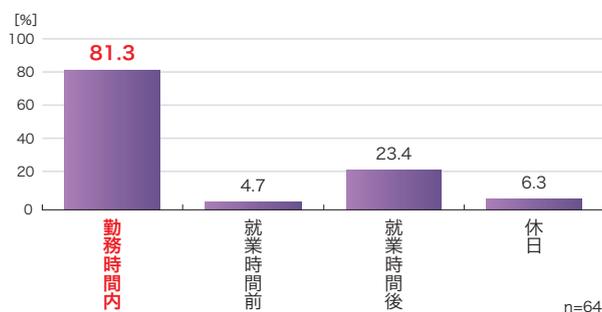
結果の利用用途 (複数回答)



受験費用の負担者



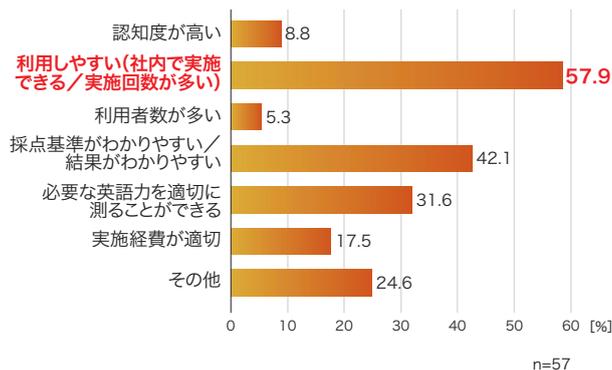
IPテストの実施時間帯 (複数回答)



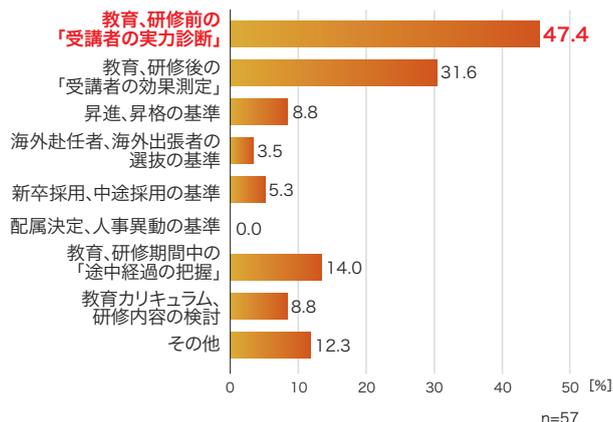
TOEIC Bridge® Test

※TOEIC Bridge® Testは2019年6月実施の公開テストより、TOEIC Bridge® Listening & Reading Testsにアップデートされました。なお、本資料では、アップデート前のTOEIC Bridge® Testについて記載しています。

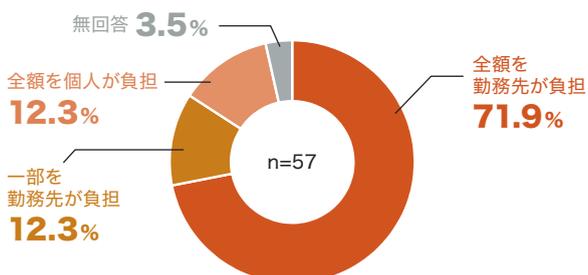
採用理由 (複数回答)



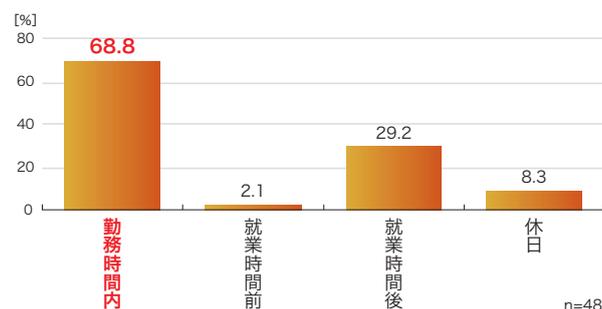
結果の利用用途 (複数回答)



受験費用の負担者



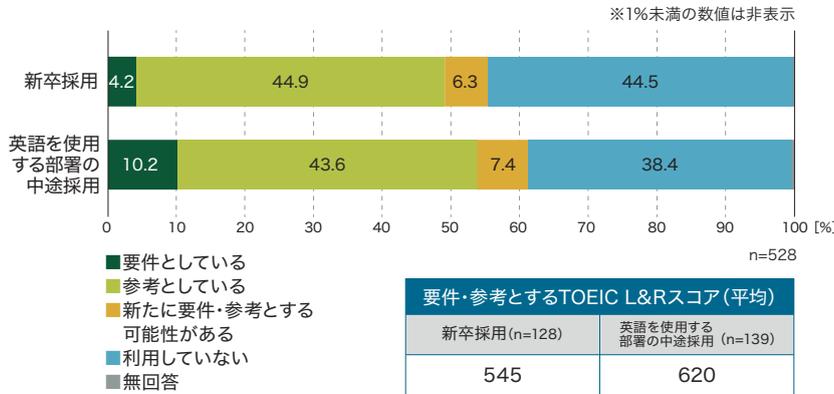
IPテストの実施時間帯 (複数回答)



企業・団体が求める TOEIC® Program スコア

社員・職員の採用や昇進・昇格、選抜についてはTOEIC Program全体の活用状況を、要件・参考とするスコアや期待するスコアについては各テストごとの点数を調査した。なお、TOEIC L&Rスコアは10～990点の5点刻み、TOEIC Speakingスコア、TOEIC Writingスコアは各々0～200点の10点刻みで算出した。

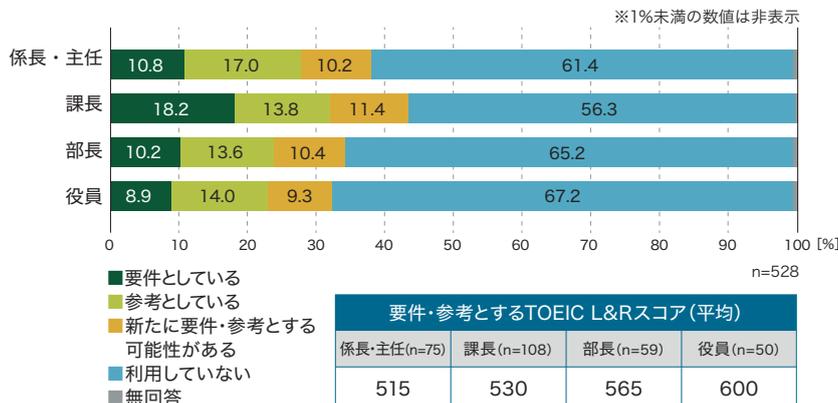
採用



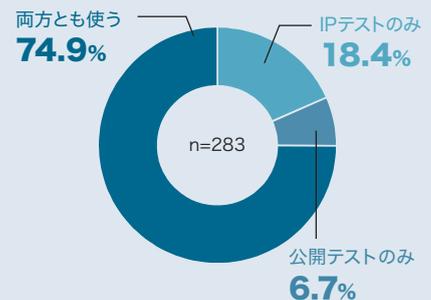
採用時に参考にするテストの種類



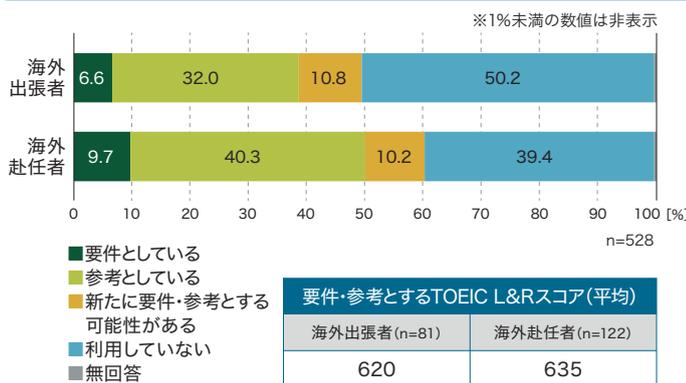
昇進・昇格



昇進・昇格時に参考にするテストの種類

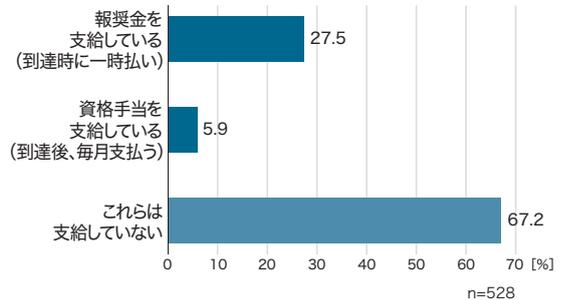


海外出張・赴任者選抜



報奨金・資格手当 (複数回答)

● 一定のTOEIC L&Rスコアに到達した場合



社員・職員に期待するTOEIC Programの平均スコア

	新入社員	中途社員	技術部門	営業部門	海外部門
TOEIC L&R	535	560	560	575	690
TOEIC Speaking Test	110	110	120	120	140
TOEIC Writing Test	110	110	130	120	140

昇進・昇格スコアの例

【TOEIC L&R】

業種	従業員数 (連結ベース)	昇進・昇格スコア (TOEIC L&R)			
		係長・主任	課長	部長	役員
建設・土木	2,000～4,999人	650	—	—	—
	10,000～49,999人	470	470	470	470
化学・薬品	299人以下	600	600	600	600
	2,000～4,999人	600	600	—	—
石油・石炭・ゴム	2,000～4,999人	—	500	500	500
	2,000～4,999人	—	500	—	—
繊維・紙・木材	10,000～49,999人	650	650	—	—
	—	600	600	—	—
鉄・非金属・窯業	500～999人	550	550	550	550
	5,000～9,999人	—	600	—	—
輸送機器・関連機器	300～499人	500	500	500	500
	1,000～1,999人	450	550	550	600
	10,000～49,999人	500	600	700	800
	50,000～99,999人	600	600	—	—
一般機械製造	300～499人	400	400	400	400
	299人以下	650	700	700	700
電機・精密機械	1,000～1,999人	500	500	500	—
	2,000～4,999人	400	400	500	500
	5,000～9,999人	500	550	600	—
その他製造業	2,000～4,999人	400	500	500	500
	50,000～99,999人	—	500	500	—
情報通信・通信サービス	300～499人	700	700	700	700
	500～999人	500	600	720	720
	10,000～49,999人	600	600	600	600
運輸・倉庫	299人以下	550	—	—	—
	300～499人	500	600	600	—
	1,000～1,999人	450	—	—	—
商社	10,000～49,999人	700	700	700	700
	500～999人	600	600	800	800
卸売・小売	500～999人	500	600	600	600
	500～999人	500	600	600	600
飲食・宿泊	500～999人	400	400	500	600
	500～999人	400	550	730	860
その他サービス業	500～999人	400	400	500	600
	10,000～49,999人	400	550	730	860

【TOEIC L&R+TOEIC S&W】

※L&R:TOEIC Listening & Reading Test、S:TOEIC Speaking Test、W:TOEIC Writing Test

業種	従業員数 (連結ベース)	係長・主任			課長			部長			役員		
		L&R	S	W	L&R	S	W	L&R	S	W	L&R	S	W
化学・薬品	10,000～49,999人	500	70	70	500	70	70	500	70	70	500	70	70
	299人以下	600	80	80	650	100	100	800	150	150	800	170	170
情報通信・通信サービス	2,000～4,999人	730	130	—	730	130	—	730	130	—	730	130	—
	500～999人	650	140	130	—	—	—	—	—	—	—	—	—

報奨金の例

※報奨制度で、最も高く設定されているTOEIC L&Rスコアとその金額について記載

業種	従業員数 (連結ベース)	TOEIC L&R スコア	金額	業種	従業員数 (連結ベース)	TOEIC L&R スコア	金額
農林・水産・鉱業	5,000～9,999人	980	10,000円	その他製造業	500～999人	650	50,000円
	500～999人	700	20,000円		2,000～4,999人	900	100,000円
建設・土木	2,000～4,999人	800	50,000円		5,000～9,999人	730	20,000円
	5,000～9,999人	650	10,000円		1,000～1,999人	820	22,000円
	10,000～49,999人	900	30,000円	10,000～49,999人	740	50,000円	
化学・薬品	299人以下	990	300,000円	電気・ガス・熱供給・水道	299人以下	860	50,000円
	1,000～1,999人	730	30,000円		300～499人	900	200,000円
	2,000～4,999人	920	50,000円	情報通信・通信サービス	300～499人	800	15,000円
299人以下	860	30,000円	500～999人		500	50,000円	
食品	2,000～4,999人	730	20,000円		10,000～49,999人	800	30,000円
	1,000～1,999人	900	30,000円	運輸・倉庫	300～499人	800	30,000円
石油・石炭・ゴム	1,000～1,999人	900	30,000円		2,000～4,999人	700	50,000円
	繊維・紙・木材	5,000～9,999人	940	300,000円	50,000～99,999人	860	15,000円
鉄・非金属・窯業		500～999人	850	30,000円	不動産	299人以下	905
	1,000～1,999人	990	100,000円	500～999人		860	40,000円
	2,000～4,999人	730	50,000円	商社	299人以下	940	5,725円
	10,000～49,999人	900	100,000円		2,000～4,999人	800	5,000円
輸送機器・関連機器	500～999人	400	2,000円	卸売・小売	299人以下	800	10,000円
	1,000～1,999人	470	30,000円		500～999人	900	50,000円
	5,000～9,999人	910	30,000円	5,000～9,999人	900	225,000円	
	10,000～49,999人	860	10,000円	飲食・宿泊	500～999人	860	30,000円
一般機械製造	300～499人	750	100,000円		1,000～1,999人	990	5,725円
	1,000～1,999人	900	150,000円	2,000～4,999人	800	100,000円	
	5,000～9,999人	940	50,000円	銀行・保険・証券・信販	299人以下	900	50,000円
10,000～49,999人	860	20,000円	500～999人		600	20,000円	
760	75,000円	その他サービス業	5,000～9,999人		470	32,000円	
299人以下	990		50,000円	299人以下	700	30,000円	
300～499人	950		10,000円	500～999人	600	20,000円	
1,000～1,999人	800		100,000円	5,000～9,999人	930	100,000円	
電機・精密機械	2,000～4,999人	860	34,000円	その他	299人以下	700	30,000円
	5,000～9,999人	875	100,000円		1,000～1,999人	990	50,000円
	2,000～4,999人	860	34,000円		10,000～49,999人	800	50,000円
	5,000～9,999人	875	100,000円				

資格手当の例

※資格手当で、最も高く設定されているTOEIC L&Rスコアとその金額について記載

業種	従業員数 (連結ベース)	TOEIC L&R スコア	金額	支給期間	業種	従業員数 (連結ベース)	TOEIC L&R スコア	金額	支給期間
食品	299人以下	860	3,000円	12ヵ月	運輸・倉庫	500～999人	730	2,500円	—
	299人以下	910	12,000円	—		2,000～4,999人	890	7,500円	36ヵ月
輸送機器・関連機器	2,000～4,999人	860	100,000円	—	卸売・小売	500～999人	800	10,000円	—
	5,000～9,999人	875	7,500円	—		299人以下	500	1,000円	12ヵ月
電機・精密機械	50,000～99,999人	875	2,600円	—	飲食・宿泊	500～999人	990	5,000円	—
	300～499人	800	2,000円	12ヵ月		500～999人	990	5,000円	—
その他製造業	300～499人	800	2,000円	12ヵ月	その他サービス業	500～999人	990	5,000円	—
	300～499人	800	2,000円	12ヵ月		500～999人	990	5,000円	—



一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会

資料請求・お問い合わせ(団体専用)

東京	〒100-0014 東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル	TEL:03-5521-5901
名古屋	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル	TEL:052-220-0282
大阪	〒541-0059 大阪府大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル	TEL:06-6258-0222

IIBC公式サイト <https://www.iibc-global.org>